

## 第14回 医療関係団体新年互礼会

と き 平成31年1月5日(土) 17:00～19:00

ところ ホテルニュータナカ2階「平安の間」

[報告：理事 長谷川 奈津江]

1月5日、山口県の15の医療関係団体による新年互礼会が山口市で行われた。平安の間にぎっしりとテーブルと椅子が配置され、約400人の出席者が着席している中で会は始まった。

年ごとにこの会へ出席する人は増えており、広い会場も手狭になるほどの盛況ぶりである。

小山茂幸 県歯科医師会長の開会の辞、河村康明 県医師会長の年頭の挨拶からスタート。河村会長は、横倉義武 日本医師会会長が本会に5年連続で出席なさっていることを、われわれ医療関係団体が協力して山口県民のため切磋琢磨するようにとのメッセージと受け取っていると挨拶された。

新春のお言葉は、村岡嗣政 県知事、横倉日医会長、堀 憲郎 日本歯科医師会長、山本信夫 日本薬剤師会長、福井トシ子 日本看護協会会長と続いた。医療界の各リーダーが壇上に並ぶ様は圧巻であった。

そして今回のトピックは、何とんでも安倍晋三 内閣総理大臣のご出席である。開会よりかなり早い時間から、館内要所に警護と思われる方が立ち、鋭い視線を四方に走らせていたが、主催者側も例年とは異なる緊張感であった。

安倍総理が万雷の拍手の中、登壇されると会場からカメラのシャッター音が続いた。

総理の新春のお言葉は、良質な医療介護を支え

るべき国の財政基盤が、アベノミクスにより改善し良好な現況であるという報告から始まった。政権の課題である少子高齢社会に対応するためには元気で長生きできる社会を作らなければならないとして、健康、疾病予病へのインセンティブ強化、年金受給開始年齢の変更、地域医療介護総合確保基金の増額、病床再編など多くの課題を列挙された。そして最後に、今年の干支である猪は、猪突猛進だけではなく、本当は障害物をよけて進み、場合によってはUターンするしなやかさを持っている動物であり、安倍政権もしなやかな政権でありたいと締めくくられた。

総理のUターンとは、何を意味するのか。

来賓ご挨拶は、河村建夫 衆議院議員、岸 信夫 衆議院議員、高村正大 衆議院議員、榎屋敬悟 衆議院議員、江島 潔 参議院議員、北村経夫 参議院議員、柳居俊学 山口県議会議長、椎木 巧 市町長代表(周防大島町長)。

開会前、周防大島町長さんにお会いした際にご多忙のところをと挨拶申し上げますと、「昨年と比べると落ち着きました」とのお答えだった。

乾杯のご発声は、前川剛志 山口県立大学理事長。万歳三唱は、岡 正朗 山口大学学長で、中原靖明 県薬剤師会長の閉会の辞をもって、めでたくお開きとなった。

